

新しい公共支援事業 新しい公共の場づくりのためのモデル事業

「NPOと地域と未来をつなぐ 新たなしくみづくりモデル事業」 報告書

平成25年3月

特定非営利活動法人「育て上げ」ネット

立川市

1. 地域の課題

コミュニティ機能の低下による地域社会の担い手不足が、安心・安全な地域づくりを進める上で大きな課題となっている。また、市内の自治会の組織率も50%を切っており、役員等支える人材不足とその高齢化が問題となっている。一方、市内NPO団体は80団体あり、その使命に基づいて多様な活動を展開しているが地域における認知度は低く、また団体間のネットワークもなくその力が地域の中で活かされていない状況である。このような中、東日本大震災を契機に地域の安心安全を担う地縁型の自治会と使命型のNPOが連携して地域課題の解決に当たるのが目指すべき方向性であるが、それを支えるネットワークが未整備であるとともに、人材の発掘育成も体系的にできていないという課題がある。

2-①. モデル事業の概要

地域課題の解決のために、まずネットワーク化に必要な市内のNPOの情報収集を行うとともに、コーディネート型の地域人材の発掘と育成を実施する。これらのNPO活動の基盤作りと並行して、市内3か所でNPOが自治会などの地縁団体と具体的な協働事業を展開することを通して地域における新たな課題解決の仕組み作りに向けた検証を行う。具体的には、①若者の就労支援のNPOが地域の商店街と自治会と協働して若者の行動力を活かした地域支援活動を行う事業②地域で配食サービスを行っているNPOが多様な地域団体と協働して地域の高齢者を支える仕組みづくり事業③市内で多様に展開されているNPO等の活動紹介等を内容とするミニコミ誌の発行や団体間のマッチングを行う事業を実施する。これらの事業への支援を通して新たな協働のしくみづくりを検証し基盤づくりに活かすこととした。

NPOと地域と未来をつなぐ新たなしくみづくりモデル事業

平成23年度

○地域における安心安全に向けた地域連携の検証事業（柏町地域モデル事業）

○NPO等のネットワーク化に向けたキックオフ・フォーラム

平成24年度

○地域課題解決に向けたNPO等の協働事業を通じた新しい公共の仕組みの検証事業

協働事業

地域団体
(自治会等)

情報発信

「育て上げ」ネット
チャンプラーの会

アンティ
多摩

○NPO等の情報収集やネットワーク構築・人材育成による新しい公共基盤整備事業

- ・NPO等の情報収集、分析
- ・NPO等へのヒアリング
- ・ワークショップによる課題抽出
- ・ネットワークの構築
- ・コーデイネート型の人材育成

3. マルチステークホルダーの概要

○特定非営利活動法人「育て上げ」ネットと立川市は、モデル事業における全体のコーディネートを担当した。

○特定非営利活動法人「育て上げ」ネット、特定非営利活動法人高齢社会の食と職を考えるチャンプルーの会、特定非営利活動法人市民活動サポートセンター・アンティ多摩は、モデル事業の実施主体となった。

○市民活動センターたちかわ、立川市自治会連合会は、市民活動団体や自治会との橋渡しとともに、広報事業の役割を果たした。

4. 実施事業の詳細な内容

〈平成23年度事業の実績〉

(1) 地域における安心安全に向けた地域連携の検証事業

【計画】

NPO等のネットワーク化に向けた検証事業として実施。協議の場のしくみを構築するに当たり、「協議の場」を実践的に検証するため、柏町地域をモデル地区とし、自治会連合会柏町支部を中心に地域内の諸団体やNPO等が参加する3回のワークショップを実施するとともに、課題を抽出する。

【実績】

下記のとおりワークショップを実施するとともに、その内容を報告書としてまとめ、「市民活動団体やサークル団体などのテーマ型のコミュニティも地域活動へ参画してもらえよう新たなしくみづくりと、その運営等をコーディネートする人材の育成や発掘が課題となる。」という課題を整理することができた。

| | | |
|------------------|-------------|-------------|
| (実施日) 第1回ワークショップ | 平成23年9月26日 | 19:00～20:15 |
| 第2回ワークショップ | 平成23年10月14日 | 19:00～20:15 |
| 第3回ワークショップ | 平成23年11月7日 | 19:00～20:15 |

(2) 地域における安心安全に向けた地域連携の検証事業報告会

【計画】

検証事業の報告会を実施することで、新しい公共に向けた機運の醸成及び参加者の課題の共有を目的とする。柏町地域で実施した全3回のワークショップを総括して報告するとともに、参加者の意見交換(ワールドカフェ方式)を行う。

【実績】

報告会を実施し、

- ① 日常のつながりをつくるためにできること
- ② 地域の環境を守り、育てるためにできること
- ③ 地域活動に新たに人を呼び込むためにできること
- ④ 大学生など若い世代と連携した取り組みでできることについて意見交換を行い、地域における安心安全に向けた地域連携の検証事業のまとめが参加者とともに行うことができた。

(実施日) 平成23年12月21日 19:00～21:00

報告会の様子



(3) NPO等のネットワーク化に向けたキックオフフォーラム

【計画】

柏町地域で実践した検証事業の結果を受け、課題を市民全体で共有し、課題解決に向けた意見交換を行う。平成24年度の具体的な取り組みに向けて機運を醸成することを目的に、そのテーマに沿った内容の基調講演及びパネルディスカッションを実施するとともに、ネットワーク化へのNPO等同士の交流会を実施する。

【実績】

studio-L代表の山崎亮氏を招き、「コミュニティデザイン」をテーマに基調講演を行った。また、NPO等のネットワーク化に向けてNPO等同士の顔合わせを兼ねた交流会を実施し、平成24年度の具体的な取り組みに向けて機運を醸成することができた。

(実施日) 平成24年3月17日 13:00～15:30

キックオフフォーラムの様子



平成24年3月17日開催

平成24年度事業の実績

(1) 地域課題解決に向けたNPO等の協働事業を通じた新しい公共の仕組みの検証事業(2ページ図参照)

【計画】

- ① 若者の就労支援のNPOが地域の商店街と自治会と協働して若者の行動力を活かした地域支援活動を行う事業
- ② 地域で配食サービスを行っているNPOが多様な地域団体と協働して地域の高齢者を支える仕組みづくり事業
- ③ 市内で多様に展開されているNPO等の活動紹介等を内容とするミニコミ誌の発行や団体間のマッチングを行う事業

☆これら3つの協働事業を通して、地域課題の解決に向けた、地域とNPOの協働事業を進める上での課題を抽出していくことを目的とした。

(2) NPO等の情報収集やネットワーク構築・人材育成による新しい公共基盤整備事業

【計画】

地域課題の解決のために、まずネットワーク化に必要な市内のNPOの情報収集を行うとともに、コーディネート型の地域人材の発掘と育成を実施する。また、これらのNPO活動の基盤づくりに取り組む。

〈取り組みの方向性〉

- ① 立川市では、第3次基本計画において、地域住民や地域を構成する組織・団体が、地域の課題を共有し、自主的に解決に取り組む地域自治のしくみづくりを進めるとし、地域の課題に自主的に取り組むための協議の場づくりを展開していくことを取組指標に掲げている。
- ② 立川市では、市民活動の拠点づくりとして、立川市子ども未来センター内に協働スペースが、平成25年3月にオープンした。今回のモデル事業の結果を反映し、NPO等と地域をつなぐ取り組みを引き継いで展開していく予定である。

【実績】

(1)－①若者の就労支援のNPOが地域の商店街や自治会と協働して若者の行動力を活かした地域支援活動を行う事業NPO等のネットワーク化に向けた検証事業

(企画内容)

・地域の役に立つとともに、若者のさまざまな経験を通じて成長の機会を得、地域も若者も元気になる事業として企画。
そこで、NPOと地域の団体が協働して事業を行うことにより、新たなしくみづくりに向けた課題等を検証し、今後の取り組みの方向性を検討するための資料を収集するとともに、市内高松町地域における団体間の連携促進を図ることを目的とする。

(実施団体等)

- ・実施団体 NPO法人「育て上げ」ネット
- ・実施期間 平成24年6月11日～平成25年3月15日

【事業実施の経過】

- 御用聞き事業にかかるとの打ち合わせ
 - 平成24年5月7日 市との打ち合わせ
 - 平成25年1月11日 市との打ち合わせ
- 御用聞き事業実施
 - 平成24年6月11日から平成25年3月15日まで
- 立川市自治会連合会との打ち合わせ
 - 平成24年8月27日 自治会連合会会長との打ち合わせ
- 立川市自治会連合会高松町支部との打ち合わせ
 - 平成24年8月31日 自治会連合会高松町支部役員との打ち合わせ
 - 平成24年10月6日 自治会連合会高松町支部自治会長会議での説明
 - 平成25年1月15日 自治会連合会高松町支部自治会長会議での説明
- 民生・児童委員研修会
 - 平成25年1月25日 高松町地区民生委員研修会

【若者の就労支援のNPOが地域の商店街や自治会と協働して若者の行動力を活かした地域支援活動を行う事業における検証結果】

(1) 新たなしくみづくりに向けた取り組みの方向について

ONPO法人の活動テーマと新たなしくみとの整合性について
ONPO法人はその設立趣旨に基づき活動を展開していたため、まちづくりが活動の目的ではない場合、新たなしくみに参画するには、法人のテーマに沿った形で参画できるかがポイントになる。そのため、仮に多様な団体が参画する地域課題の解決のための「協議の場」にNPO法人が参画するのであれば、「協議の場」を設定する目的が明確であり、当該NPO法人の活動の範囲内での参画を、他の団体は理解しなければならぬ。しかしながら、地域における課題解決のために、法人の活動テーマによる参画で解決に向けた取り組みもできるため、「協議の場」へ最適なNPO法人をつなげるコーディネートが必要である。

○新たなしくみに向けた協働事業の実施について

一方、NPO法人が自ら地域に参画していくための取り組みをすれば、地域団体との協働事業の積み重ねが必要となる。
今回の事業では、市と自治会連合会を通じて、自治会の地域住民へ回覧をしたことで、広く住民に周知され、回覧を見た民生・児童委員につながり、民生・児童委員の研修をNPO法人「育て上げ」ネットで行うことができ、地域におけるNPO法人の認知度が向上し、次の展開へつながる結果となった。このような事業を通じた成功事例の積み重ねが、地域への認知度向上と信頼につながっていく。

(2) 新たなしくみづくりを進める上での課題

○情報発信と情報共有について

今回の事業における情報発信は、自治会の回覧と市のホームページを活用した。自治会の加入率が50%を下回る状況であるが、自治会による回覧により民生・児童委員につながったこともあり、回覧の効果はまだまだ高い。

また、今回の事業の内容を紹介した「協働ニュース」は、自らの情報発信だけではなく、第三者の目で紹介された情報発信の方が、民生・児童委員につながったように、NPO法人の活動に対する興味を引き出しやすかった。今回のように情報発信を含めた協働事業のしくみは、NPO法人の認知度向上には有効な手段であった。

○行政の役割について

新たなしくみづくりに取り組むにあたり、NPO法人にそのしくみに参画してもらうためには、まず行政のコーディネートは不可欠である。
今回の事業では、自治会連合会高松町支部への事業の説明に、NPO法人と行政が高松町支部の自治会長会議へ一緒に説明に行くことで、自治会長への理解を促すことができた。導入部分での丁寧な対応が、その後の事業展開に重要な要件となったことが実証された。新たなしくみづくりを展開するにあたっては、導入部分で理解を得られるような丁寧な説明と対応が、その地域での事業展開を図る上で重要なポイントになってくる。また、取り組みを展開していく中では、例えば広報などの後方支援体制が、地域課題の解決に向けて、NPO法人を含めた多様な団体が参画する「協議の場」を支えるためには有効な手段である。

○財源について

今回の事業を実施した結果、協働事業を通じて情報発信までの一連の流れのしくみが、地域課題を解決するために多様な団体を巻き込むためには有効であることが実証された。しかし、協働事業実施にあたっての財源の確保が課題となる。地域課題解決にあたっての受益者となる団体、企業、住民からの負担を得られるしくみができれば、事業を継続していくことが可能となると考えられる。しかし、そのしくみが確立できるまでは、立川市協働のまちづくり事業補助金等の市民活動向けの助成金の活用が考えられる。

○人材について

今回の事業を実施するにあたっては、団体間のコーディネートを行政が主に担って取り組んできたが、地域に居住する住民がコーディネーターとなることも、目指すべき方向である。そのような地域の人材は、協働事業による成功事例の積み重ねから人材が発掘されてくる。

(3) まとめ

本委託事業を実施した結果、地域団体とつながることができたのは、協働事業を通じて実施した結果である。このように、協働事業の実施を積み重ねるとともに、その事業を広く公表するしくみを確立することが、新たなしくみには必要不可欠な要素である。

また、単なる事例公表にとどまらず、成功事例をもとに協働事業を新たな実施するNPO法人への働きかけによる展開も必要となる。今後、本事業で実証された協働事業の実施と周知のしくみを確立し、継続することができると期待される。

【実績】

(1)ー ②地域で配食サービスを行っているNPOが多様な地域団体と協働して地域の高齢者を支える仕組みづくり事業

(企画内容)

○連続講座の実施

「連続講座(シリーズⅠ～Ⅲ)実施の概要」

- ・シリーズ全体のテーマ:住み慣れた地域で暮らし続けるために歳をとっても自分の家で暮らし続けるために、学習し、行動し、自立する高齢者をめざそう!というのが、講座全体のテーマである。
- ・広報活動:チラシを団地1F階段室(約150か所)、チャンプルーの会のある商店街に掲示1)地域で配食サービスを行っているNPOが多様な地域団体と協働して地域の高齢者を支える仕組みづくり事業

(実施団体等)

- ・実施団体 NPO法人 高齢社会の食と職を考えるチャンプルーの会
- ・実施期間 平成24年5月14日～平成25年3月15日

連続講座シリーズ I (全5回)

- ・テーマ: 知っておきたい! サポートのしくみと私たちができること
- ・ねらい: 自分の家で暮らし続けるためには、介護が必要になったとき、認知症になったとき、どんなサービスが受けられるのか知ること。
- ・実施日時: 2012年6月1日、6月8日、6月22日、6月29日、7月6日
いずれも午前10:00~12:00
- ・場所: 若葉町団地集会所
- ・参加者数 20~35人
- ・成果: 地域包括支援センターわかば、地域あんしんセンターたちかわのスタッフの方から、仕事やサポートのしくみを学び、親近感と安心感が得られた。第3回目交流会を設定したことで、参加者同士のつながりが強くなった。

連続講座シリーズⅡ（全4回）

- ・テーマ:もっと知りたい！認知症のこと
- ・ねらい:歳を重ねるとだれでも認知症になる可能性があるが、認知症になっても地域で暮らし続けるためには、病気について正しい知識をもつこと、支え合うしくみの大切さを学ぶ。

・実施日時:2012年10月6日、10月12日、10月19日、10月26日

いずれも午前10:00～12:00

・場所:若葉町団地集会所

・参加者数:20～25人

・成果:東京都健康長寿医療センター研究所の宇良先生のフィールドワークから「宮古島では、お年寄りが一人でぶらぶら歩いている姿を日常的に見かけるが、それは散歩であって、徘徊とはだれも言わない」というお話があり、住民が顔見知りであること、地域のつながりの重要性を考えさせられた。

連続講座シリーズⅢ（全4回）

- ・テーマ：はじめよう！今からできること
- ・ねらい：元気なうちにできることはやっておこう！ということで、終活ノートの作成、ものと暮らしを整理すること、家族葬ができる施設見学を通して、若葉団地で死ぬまで暮らし続けることが可能かを考える。

・実施日時：2013年2月20日、2月27日、3月1日、3月8日

いずれも午前10:00～12:00

・場所：若葉町集会所、見学現地

・参加者数：15～25人

・成果：具体的なテーマであったため、大変関心が高かった。最終回は交流会を実施したため、団地内の知り合いを増やすことができた。

【地域で配食サービスを行っているNPOが多様な地域団体と協働して地域の高齢者を支える仕組みづくり事業における検証結果】

(1) 新たなしくみづくりに向けた取り組みの方向について

○目的を明確にする

新たなしくみづくりを進めていく上で、何が課題で、その課題を解決するために何が必要なのかを明確にし、団体間で共有する必要がある。今回の事業を始めるにあたって、このことが一番重要であった。NPO法人高齢社会の食と職を考えるチャンプルーの会と若葉町団地自治会が、事業を始めるにあたって、地域における助け合いのしくみづくりについての共通認識を持てたことが、その後の事業を進める上でのポイントになった。

新たなしくみづくりに向けては、団体間で課題を共有する「協議の場」は必要である。

○新たなしくみは協働事業を実施していく中でつくられていく

団体間で、地域課題の共有ができ、その課題を解決するための手段を共有できれば、協働事業を通じて「協議の場」ができ、新たなしくみがつくりあげられていく。その「協議の場」に地域の多様な団体を巻き込んでいくことで、重層的に機能する地域のしくみがつくり上げられていく。また、「協議の場」に地域の多様な団体を巻き込むためには、協働事業を広く地域に情報発信し、共感者を増やしていくことも必要である。したがって、地域課題のテーマごとの「協議の場」による取り組みの積み重ねが、新たなしくみづくりにつながっていく。今回の事業を実施することで、この取り組みを終わらせるのはもったいないという参加者からの自発的な動きもあり、新たなしくみづくりにつながっている。

(2) 新たなしくみづくりを進める上での課題

○「協議の場」の必要性の共有

地域における団体同士が「協議の場」を設定するためには、協議の場の必要性を共有する必要がある。そのため、地域課題のテーマごとに「協議の場」を設定する方が参加しやすい。ただし、それぞれの団体はその成り立ち、取り組みテーマが違いため、「協議の場」への関わり方は違い、役割分担を明確にする必要がある。

○行政の役割

「協議の場」のきっかけづくりとして、団体間をつなぐためには行政の役割が必要となるが、地域の課題を地域自らが取り組むための自主的な活動に対する支援体制の確立が課題である。例えば、行政による広報活動は、行政の信頼感により地域住民が事業に参加しやすくなるものとなる。

○財源の確保

「協議の場」が協働事業を実施していく中でつくりあげていくとするならば、事業実施のための財源が必要となる。立川市協働のまちづくり事業補助金等の市民活動向けの助成金の活用が考えられるが、市の施策に位置づけられるものであるならば、市の予算による協働事業として取り組むことも必要である。また、「協議の場」を広く地域に情報発信し、共感者を増やしていくことで、事業に直接参加するのではなく、寄付という形で参加者を増やすことで財源の確保につながることも考えられる。

○人材の育成

「協議の場」が設定された後、その場をコーディネートする人材が必要となる。地域をよく知る方が、地域をコーディネートしていくことが理想であるが、団体間による協働事業を実施していく中で人材が発掘され、また、新たな自発的な機運が醸成されていくと考えると考えられる。

(3) まとめ

本委託事業を実施する中で、地域課題のテーマごとの「協議の場」による取り組みの積み重ねが、新たなしくみや自発的な動きにつながっていくことを実証することができた。それぞれの団体が持つ特徴を理解し、その特徴を活用することで、地域課題の解決に向けて多くの「協議の場」がつけられるとともに、その「協議の場」をさらにつなげることで新たなしくみが構築されると考えられる。今後は、その「協議の場」への財政的な面も含めた支援体制を確立することが求められる。

【実績】

(1)－③市内で多様に展開されているNPO等の活動紹介等を内容とするミニコミ誌の発行や団体間のマッチングを行う事業を実施した。

(協働ニュースの発行)

- ・たちかわ協働ニュースNo.1の発行 平成24年12月10日発行
- ・たちかわ協働ニュースNo.2の発行 平成25年1月25日発行
- ・たちかわ協働ニュースNo.3の発行 平成25年2月22日発行

※協働ニュースは、市内自治会に加入する約40,000世帯を対象に回覧を行った。
※その他、市内市民活動団体へ配布した。

(ミニコミ誌の発行)

- ・地域課題の解決に向けて～協働の視点から～ 平成25年3月17日発行

(市民活動団体マッチング会実施)

- ・平成25年3月17日(日) 午後1時30分～午後4時
- 参加人数 37人

(実施団体)

- ・実施団体 NPO法人 市民活動サポートセンター・アンティ多摩
- ・実施期間 平成24年5月31日～平成25年3月25日

たちかわ協働ニュース No.1

発行：立川市総合政策部企画政策課／編集：(NP0 法人) 市民活動サポーターセンター・アソシア多摩



「たちかわ協働ニュース」は、立ちかわ協働の活動の様子や、協働の意義、課題などを紹介する情報誌です。毎月発行し、協働の推進に貢献します。

発行：立ちかわ協働推進委員会

編集：立ちかわ協働推進委員会

発行所：立ちかわ協働推進委員会事務局

〒126-0001 東京都三鷹市立川1-1-1

TEL: 03-3481-1111

FAX: 03-3481-1112

E-MAIL: tachikawa@tachikawa-kohou.com

ホームページ: http://tachikawa-kohou.com

「たちかわ協働ニュース」は、立ちかわ協働の活動の様子や、協働の意義、課題などを紹介する情報誌です。毎月発行し、協働の推進に貢献します。

発行：立ちかわ協働推進委員会

編集：立ちかわ協働推進委員会

発行所：立ちかわ協働推進委員会事務局

〒126-0001 東京都三鷹市立川1-1-1

TEL: 03-3481-1111

FAX: 03-3481-1112

E-MAIL: tachikawa@tachikawa-kohou.com

ホームページ: http://tachikawa-kohou.com

「たちかわ協働ニュース」は、立ちかわ協働の活動の様子や、協働の意義、課題などを紹介する情報誌です。毎月発行し、協働の推進に貢献します。

発行：立ちかわ協働推進委員会

編集：立ちかわ協働推進委員会

発行所：立ちかわ協働推進委員会事務局

〒126-0001 東京都三鷹市立川1-1-1

TEL: 03-3481-1111

FAX: 03-3481-1112

E-MAIL: tachikawa@tachikawa-kohou.com

ホームページ: http://tachikawa-kohou.com



「たちかわ協働ニュース」は、立ちかわ協働の活動の様子や、協働の意義、課題などを紹介する情報誌です。毎月発行し、協働の推進に貢献します。

発行：立ちかわ協働推進委員会

編集：立ちかわ協働推進委員会

発行所：立ちかわ協働推進委員会事務局

〒126-0001 東京都三鷹市立川1-1-1

TEL: 03-3481-1111

FAX: 03-3481-1112

E-MAIL: tachikawa@tachikawa-kohou.com

ホームページ: http://tachikawa-kohou.com



「たちかわ協働ニュース」は、立ちかわ協働の活動の様子や、協働の意義、課題などを紹介する情報誌です。

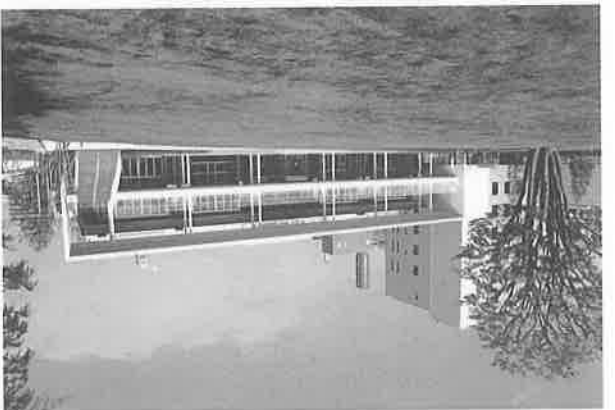
毎月発行し、協働の推進に貢献します。

「たちかわ協働ニュース」は、立ちかわ協働の活動の様子や、協働の意義、課題などを紹介する情報誌です。毎月発行し、協働の推進に貢献します。

友ちかわ協働ニュース No.2

東京都新しいバ公共支援事業助成事業

協働でまちづくりを進めよう
出会いと連携のきっかけづくり
 市民活動団体のマッチング会を開きます！



マッチング会会場の「立川市子ども未来センター」正面
 2階に市民団体等が事務作業のできる「協働事務室」や印刷室が設けられ、コピーネーターが配置されている。ロッカーやメールボックス、印刷機、複写機、ポスタープリンター等が利用できる。会場は市の施設予約システムを通じて空き状況の確認や予約の申請ができ、優先利用もある。

友ちかわ協働事務室
 〒182-0001 東京都立川市中央1-1-1
 042-529-8682

友ちかわ協働ニュース

2024年10月15日(日)17:00

「友ちかわ協働事務室」の活用
 友ちかわ協働事務室は、市民団体等が事務作業のできる「協働事務室」や印刷室が設けられ、コピーネーターが配置されている。ロッカーやメールボックス、印刷機、複写機、ポスタープリンター等が利用できる。会場は市の施設予約システムを通じて空き状況の確認や予約の申請ができ、優先利用もある。

「友ちかわ協働事務室」

協働事務室の紹介

友ちかわ協働事務室は、市民団体等が事務作業のできる「協働事務室」や印刷室が設けられ、コピーネーターが配置されている。ロッカーやメールボックス、印刷機、複写機、ポスタープリンター等が利用できる。会場は市の施設予約システムを通じて空き状況の確認や予約の申請ができ、優先利用もある。

友ちかわ協働事務室の活用
 友ちかわ協働事務室は、市民団体等が事務作業のできる「協働事務室」や印刷室が設けられ、コピーネーターが配置されている。ロッカーやメールボックス、印刷機、複写機、ポスタープリンター等が利用できる。会場は市の施設予約システムを通じて空き状況の確認や予約の申請ができ、優先利用もある。

発行：立川市総合政策部企画政策課／編集：(NPO法人)市民活動サポートセンター・アソシア多摩



住民の無償労働

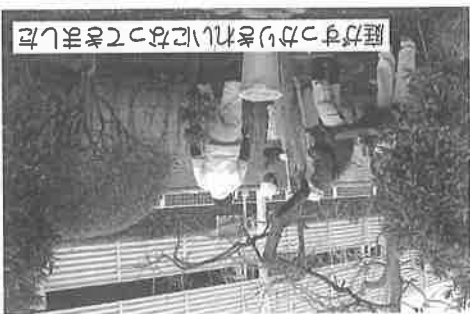
「ボランティアで畑を耕す」
。農家の高齢者が、無償で労働している。このように、地域住民の力を活用している。

「ボランティアで畑を耕す」 高齢者の無償労働

(取材地) 千葉県市川市
。高齢者の無償労働が、地域活性化に貢献している。

高齢者の無償労働が、地域活性化に貢献している。

高齢者の無償労働が、地域活性化に貢献している。



高齢者の無償労働

高齢者の無償労働が地域活性化に貢献している

高齢者の無償労働が地域活性化に貢献している

高齢者の無償労働が、地域活性化に貢献している。

高齢者の無償労働が、地域活性化に貢献している。

高齢者の無償労働が、地域活性化に貢献している。

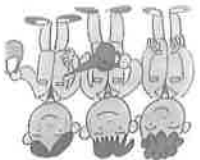
高齢者の無償労働が地域活性化に貢献している

高齢者の無償労働が、地域活性化に貢献している。

たちかわ協働ニュース No 2
2013年1月25日発行

◆ 立ちかわ協働センター
〒190-8666 東京都立川市城町1155-9
Tel: 042-523-2111 (宅) / Fax: 042-521-2553
http://www.city.tachikawa.lg.jp
kakusei@sakusei.tachikawa.lg.jp

◆ (郵送) 市垣協働センター「ボランティア」
〒190-0022 東京都立川市城町3-1-28-301
Tel/Fax: 042-540-1663
http://homepage2.nifty.com/auntiyama/



高齢者の無償労働が、地域活性化に貢献している。

たなかわ協働ニュース No.3

2013年2月22日発行

◆立川市総合政策部企画政策課

〒190-8666 東京都立川市泉町 1156-9

tel:042-523-2111 (代) / fax: 042-521-2653

http://www.city.tachikawa.lg.jp

◆(財)法人市民活動センター「アUNTYS多摩

〒190-0022 東京都立川市錦町 3-1-28-301

tel/fax:042-540-1663

http://homepage2.nifty.com/auntytama/



- ①2月20日「みんなで書いてみよう! ~私の“怒話”ノート~」ただけだまのおさん
- ②2月27日「うちら始めよう! ~物と暮らしを整理する~」お嬢コソコソ
- ③3月1日(金)「遊んでみよう! ~自分らしい発送のむかひ~」舞門庭園喫茶
- ④3月8日(金)「話してみよう! ~団地に暮らし始めること~」茶器会

在り暮らしの場を創りながら暮らしの質を向上させようという方針を掲げ、様々な活動を行っています。お問い合わせは、事務局 電話 042-535-8239 (02時~04時) まで。

お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが笑顔になれる場所を作りたい。そんな思いで、私たちは活動しています。一緒に活動してみませんか?

お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが笑顔になれる場所を作りたい。そんな思いで、私たちは活動しています。一緒に活動してみませんか?

お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが笑顔になれる場所を作りたい。そんな思いで、私たちは活動しています。一緒に活動してみませんか?

お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが笑顔になれる場所を作りたい。そんな思いで、私たちは活動しています。一緒に活動してみませんか?



お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが笑顔になれる場所を作りたい。

お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが笑顔になれる場所を作りたい。そんな思いで、私たちは活動しています。一緒に活動してみませんか?

お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが笑顔になれる場所を作りたい。そんな思いで、私たちは活動しています。一緒に活動してみませんか?



お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが笑顔になれる場所を作りたい。

お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが笑顔になれる場所を作りたい。そんな思いで、私たちは活動しています。一緒に活動してみませんか?

お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが笑顔になれる場所を作りたい。

お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが笑顔になれる場所を作りたい。そんな思いで、私たちは活動しています。一緒に活動してみませんか?

お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが笑顔になれる場所を作りたい。

お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが笑顔になれる場所を作りたい。そんな思いで、私たちは活動しています。一緒に活動してみませんか?

お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが笑顔になれる場所を作りたい。

お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが笑顔になれる場所を作りたい。そんな思いで、私たちは活動しています。一緒に活動してみませんか?

お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが笑顔になれる場所を作りたい。

お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが笑顔になれる場所を作りたい。そんな思いで、私たちは活動しています。一緒に活動してみませんか?

お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが笑顔になれる場所を作りたい。

お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが笑顔になれる場所を作りたい。そんな思いで、私たちは活動しています。一緒に活動してみませんか?

お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが笑顔になれる場所を作りたい。

お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが笑顔になれる場所を作りたい。そんな思いで、私たちは活動しています。一緒に活動してみませんか?

(2) NPO等の情報収集やネットワーク構築・人材育成による新しい公共基盤整備事業

① NPO等の情報収集

新たな公共の担い手としてNPOの活動が注目されている。各団体が持っている活動プログラムは、「新たな仲間づくり」や「生涯学習」、「公共空間のにぎわいづくり」、さらには災害時を想定した「共助の関係づくり」など、少なからず『公共的なサービス』という側面を持っていることから、行政も含めた多様な団体同士が協働でプログラムや事業を行っていくことが考えられる。そのため、市内を活動の中心としたNPOなど、市民活動団体の活動内容を把握・整理した。

② 担い手同士、市とのネットワークの構築

立川市においては、旧庁舎施設を活用し、市民活動の拠点として展開する。この場を「活動の舞台」として活躍してもらえよう。各市民活動団体の情報収集を進めると同時に、ネットワークを構築することも課題となっている。そこで、立川市内で活動している市民活動団体(NPO法人やサークル等)の収集した情報を整理するとともに、今後の『新たな公共の担い手』として市や多様な団体と協働して活動を展開してもらえよう。市民活動団体や市等各種団体同士のネットワークを構築する事を目的として取り組んだ。

③ コーディネート型の人材育成

団体同士のネットワークの構築には、互いの特長を理解し、協働・連携の可能性を検討する人材が不可欠である。場合によっては、新たな活動をコーディネートする存在にもなる。本事業では、ワークショップを通じて団体同士をコーディネートする人材を育成した。

〈事業の実施方法〉

まず立川市内を中心として活動する市民活動団体(NPO、サークル等)について、関係各機関(東京都のNPO法人データベースや立川市の市民活動関連部署、市民活動センターたちかわ等)の持つデータをもとに情報を収集しリスト化する。その後ヒアリング対象となる団体をピックアップし、ヒアリング調査を行った。さらに各市民活動団体同士のネットワークづくりや、市と協働で事業の展開を図るため、ヒアリングした団体を対象に、ワークショップを行った。

本事業の手順は以下の通りである。

◆市民活動団体の情報収集・分析
立川市内で活動する市民活動団体の情報収集
団体情報のリスト化・分析
ヒアリング対象団体のピックアップ

◆ヒアリング調査の実施
ヒアリング調査の準備(ヒアリングシート作成、連絡調整、スケジュールの作成等)
ヒアリング調査の実施(団体や個人など36団体)
ヒアリング結果のとりまとめ
ワークショップ参加団体のピックアップ

◆ワークショップの実施
・ワークショップの企画
・ワークショップの準備、調整
・ワークショップの実施(全3回)
・ワークショップの結果とりまとめ



新しい公共意識醸成事業
立川市子ども未来センター
第1回コミュニティプログラムワークショップ

平成24年12月にオープン予定の「立川市子ども未来センター」での市民活動プログラムを考えるワークショップのキックオフとなる第1回目が開催され、19団体33名の市民活動団体の皆さんが参加されました。コミュニティデザイナーの山崎亮氏による公共空間を魅力的にするヒントとなるレクチャーと、現在の活動における「特長」と「悩み」について、テーブルでの意見交換を行いました。

日時 平成24年9月26日(水) 19:00~21:30
場所 立川市市民会館 5階 第1会議室
参加人数 33名(19団体)

開会の挨拶

みなさんが活動して頂くときに、これは自分たちの活動場所なんだ!と思っ頂けるような気持ちのいい場所、あるいはワグワグする出会いのある場所にするにはどうすればいいか、みなさんと一緒に考えていければと思います。ぜひ活発な意見を宜しくお願い致します。

新海 まよみ (産業文化部長)

事業説明

立川市子ども未来センターは、立川市旧庁舎を活用した様々な機能を有する複合施設です。その役割は子育て支援、市民活動の推進、文化、芸術のまちづくり、にぎわい創出、行政機能の補完の5つに大きく分けられます。市民の活動をサポートするしくみづくりとして、会議や活動の準備をしたり、市民活動団体同士が交流できる協働事務室を設けます。また、コーディネートと呼ばれる市民活動団体同士をつなげたり、施設でのイベントをすすめるスタッフを配置します。芝生広場、テックスベース、まんがりパークなど、施設全体を舞台として市民活動団体のプログラムが提供される施設を目指します。

第1回目の詳細プログラム

- ▶開会のあいさつ
- ▶施設概要、事業説明
- ▶ヒアリング報告とワークショップの説明
- ▶講演『公共空間を魅力的にするには』
講師:山崎亮氏(株式会社studio-L代表取締役)
- ▶立川トリビアクイズ
- ▶テーブルワーク
「それぞれの活動の特長と悩み」
- ▶各グループの発表
- ▶閉会

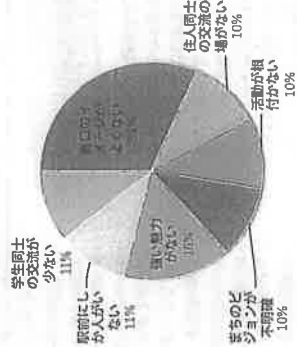
ヒアリング報告

事前に行ったヒアリングでは、36団体もの市民活動団体の方に活動の内容や、特長、悩みなどとともに、立川の魅力と課題についてもお話を伺いました。立川の魅力として、

- 多摩エリアの商業の中心的存在
- 自然環境が豊か
- 交通の便がよく、ひとが集まる
- 子育てがしやすい

といった意見が多くありました。

その一方で、課題として以下のような意見があります。



公共空間を魅力的にするには

山崎亮氏 (studio-L 代表)



これから公共空間を賑やかにしていこう、魅力的にしていこうとするときに、音楽や子育て、映画といったあるテーマに特化した市民活動団体が何か活動を行う事が大きな力になると思います。

事例として挙げた兵庫県の有馬富士公園、鹿児島県のマルヤガーデンズ、宮崎県延岡市の駅周辺は、どれも市民活動団体が来場者に活動プログラムを提供していることが魅力です。市民活動団体が様々なプログラムを提供することで、これまで来ない人たちが来るようになります。また市民活動団体自身も仲間が増え、感謝の言葉をかけられるなど様々な目に見えないメリットを受け取っています。どんなプログラムをするのか、また、運営のしくみや活動のルールなどを話し合いながら決めていきます。

今回の子ども未来センターが、みなさんがイキイキと活動する施設となり、あそこにいけば誰かとお話できると思ってもらえるようになれば、より多くの人と一緒にメリットを受け取る事ができると思います。やりたいたいこと、できること、そして地域の人運が必要としている事、この3つをそれぞれの活動の無理のないかたちでこの施設でも提供して欲しいと思います。今回は「まんが」という一つの独自の切り口で活動を広げたり、新しい仲間やファンと出会うきっかけになるかもしれません。ぜひ一緒に、活動のアイデアを考えていきましょう。

立川トリビアクイズ

今回はテーブルワークの前に、立川トリビアクイズを行いました。立川に縁のある歌手から、マンガにでてきた公園など、様々な問題が出題されました。



時には皆で相談して回答！
3名の方が7問正解されました！

※この事業は、東京都新しい公共支援事業の助成事業です

テーブルワーク「それぞれの活動の長と短と悩み」

活動の長・強み

- **どこでも活動できる**
 - ・場所を選ばないプログラム
 - ・絵本さえあれば活動できる
 - ・室内外どちらでも活動できる
 - ・時間、テーマを変えてできる
 - ・公園のように使える
- **自分たちが楽しんでいる**
 - ・活動を楽しみながらしている
 - ・やればやるほど楽しい
 - ・リリが長い
- **チャレンジ精神**
 - ・新しいこと、技術に挑戦
 - ・すぐ行動する
- **交流・仲間づくり**
 - ・交流しやすい場をつくっている
 - ・新しいつながり、交流ができる
 - ・仲直りが増える
 - ・多様な受け皿
 - ・普及行かないところへ行ける
- **笑顔・元気を生む**
 - ・聞いてくれる人が元気になる
 - ・感謝される、よこほれる
 - ・参加者が笑顔になる
 - ・お互いが笑顔になる好循環
 - ・学生生活も楽しくなる
 - ・子どもの笑顔
 - ・本好きを増やしている

- **多様なネットワーク**
 - ・都内全国の団体とつながりがある
 - ・他団体とのつながり
 - ・大学生とのネットワーク
 - ・ママさんとの連携
 - ・専門家とのネットワーク (グラフィックデザイナー、建築家)
- **多様な視点**
 - ・様々な世代が集まる
 - ・親子両方の視点
 - ・市外在住のメンバーも多く、外からの視点がある
 - ・専門家の視点がある
 - ・学生主体なので学生の視点がある
 - ・所属が違つので様々な視点がある
- **スキルアップ**
 - ・スキルアップできる
 - ・人材育成ができる
 - ・研修
 - ・専攻内容の社会での実践
 - ・社会経験になる
- **企画力**
 - ・活動を通して新しい活動、企画が生まれる
 - ・アイデアが豊富で発展性がある
- **気づきの場**
 - ・責任感をもってやっている
 - ・活動を通して新しい視点と出金える
 - ・自分では気づかなかった発見がある
 - ・好きな人、場所を知る、発見できる
- **地域性**
 - ・地域に根ざしている
 - ・多摩地域を軸断して活動している

活動での悩み

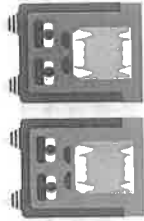
- **人材不足**
 - ・メンバーの高齢化
 - ・若い手がいない
 - ・中心メンバーが足りない
 - ・普段動ける人が少ない
 - ・主体的にやってくれる人が少ない
 - ・主力役がない
 - ・継続できるが不安
 - ・活動の人材が集まらな
- **資金**
 - ・活動資金が足りない
 - ・会員減少
 - ・安定した収入源を確保したい
 - ・来年度も継続できるが不安
 - ・手弁当でやっている
 - ・助成金頼り
 - ・事業の幅が限定される
- **経路不足**
 - ・専門分野における知識不足がある
 - ・メンバーの入れ替わりにより、経験者が抜けてしまう
 - ・実績が少なく経験不足
- **プログラムのクオリティ**
 - ・面白いものが少ない
 - ・継続できるものがない

- **多忙**
 - ・それぞれ忙しく活動する時間がない
 - ・集まる時間が合わない
 - ・作業が山がある
 - ・活動が休山による仕事増
 - ・集まる時間がなくなる
 - ・練習する時間がない
- **集客、参加不足**
 - ・参加者の集客が難しい
 - ・集客経路によって限られてしまう
 - ・子どもが忙しく、参加が減っている
 - ・子どもの興味が変わってきている
- **拠点**
 - ・各地のメンバーの連携が難しい
 - ・市外在住のメンバーも多く、遠い
 - ・立川に拠点が無い
 - ・電話相談場所がない
 - ・事務所がない
 - **活動場所**
 - ・活動場所がない
 - ・活動場所の確保が大変
 - ・活動場所までの移動時間が長い
 - **広報・情報発信**
 - ・PR下手、うまく伝わらない
 - ・WEBでのPRがうまくできていない
 - ・高齢化のためSNSを使えない
 - ・宣伝の方がわからない
 - ・団体の知名度が低い
 - ・情報伝達がうまくできていない
 - ・活動がひろがっていない

ボランティアの長、短

- ・社会性ある活動という意識がない
- ・ただの仲良しサークルになっている
- ・参加者の目的意識が低い
- **行政とのパートナーシップ**
 - ・異動があり信頼関係を築きにくい
 - ・いいように扱われているように感じる
- **その他**
 - ・悩み相違は守秘義務がある
 - ・活動頻度がきまぐれ

付箋に意見を書き、
模造紙を使ってまとめる
テーブルワークを行い、
短時間で活発な意見交換
が展開されました。



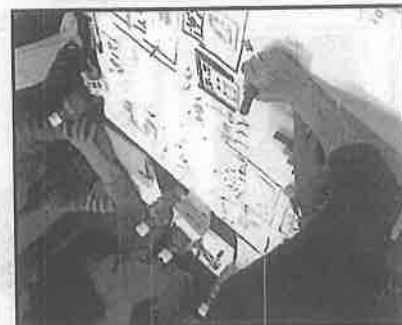
山崎さんからのコメント

各テーブルでの特長や悩みについては共通するものがありました。特に活動の悩みでは、活動の拠点、情報発信という意見が多いようです。

子ども未来センターという新しい活動の場所ができるといふこと、情報を発信するということ、集まっている沢山の市民活動団体とつながりながら、今まで悩みであったことをうまく解決できる方法を探っていければと思います。他の市民活動団体と活動することで、今までお金をかけなければいけなかったことが減り、新しい仲間が増えるかもかもしれません。次回はより具体的にどんな場所になったらいいか話し合えればと思います。

今日はありがとうございました。

<編集・発行> 立川市・studio-1





日時 平成 24 年 10 月 17 日 (水)
19:00~21:30
場所 立川市市民会館 5 階 第 1 会議室
参加人数 33 名 (19 団体)

第 2 回目の詳細プログラム

- ▶ 開会のあいさつ
- ▶ 前回のふりかえり
- ▶ 参加団体の活動紹介タイム
- ▶ 施設見学
- ▶ テーブルワーク 1
「子ども未来センターがどんな場所になったらしいか」
- ▶ テーブルワーク 2
「子ども未来センターで活動する上で大切にしたい願い」
- ▶ 各グループの発表
- ▶ 閉会

今回は施設見学とテーブルワークを同時進行で行いました！

参加団体の活動紹介タイム
ワークショップには、20 団体以上の市民活動団体の方にご参加いただいています。それぞれが多様なジャンルで活動されています。今回は、各団体で自己紹介カードをつくり、全員で活動紹介を行いました。制限時間は1分。カードに絵を書いたり、チラシを利用したり、みなさん工夫して活動を紹介されていました。



施設見学

子ども未来センターでの活動をより具体的にイメージするため、施設の機能や空間を実際に確認することが重要です。今回は施設が改装中のため、清水建設さんのご協力により、見学が実現しました。テーブルワークと並行して、5 つの班が 3 回に分かれて改装中の施設に見学に向かいます。

まずはワークショップ会場である市民会館一階に展示されている模型をもとに、清水建設の牧住さんより施設全体の説明を受けました。



いざ改装中の施設内へ潜入！
1F 子育て支援・行政機能エリア
改装中のため全員ヘルメットを着用し、いざ施設内へ。まずは一階のフロアを見学します。1 階は総連絡所や子育て行政事務室のほか、子育て支援事業として、一時預かりスペースや子育てのための交流スペースなどができようとしています。今回の改装では、旧庁舎の壁や床を一部残しており、以前の庁舎を知る方にとっては懐かしい部分も。



2F 立川まんがばーく・市民活動推進エリア
2 階には、市民活動の拠点となる、協働事務室（仮）や印刷室、会議室、そしてまんがばーくができそうです。そのまま生立場へ続くウッドデッキと外階段でも、何か活動プログラムができそうです。皆さん、配布された図面とともに質問をしたり、広さを確認されていたり、参加者の皆さんは興味津々に見学されていました。



そのほかの活動スペース
今回は文係が驚く見学はかかせませんが、センターの入り口から表通りにむけて芝生広場がひろがり、地下一階には木工作業などができるアトリエや、展示スペースにもなるギャラリ―などもできる予定です。施設全体が活動エリアとなること案載することができました。

- 参加者からの感想（アンケートより）
- ・具体的なセンターのイメージを考えるきっかけになりました。
 - ・普段は言いにくい改装中の現場を見学できてドキドキしました。

テーブルワーク

施設見学と並行して、各テーブルでは「子ども未来センターがどんな場所になったらいいか」、「子ども未来センターで活動する上で大切にしたい願い」について、意見交換をするテーブルワークが行われました。見学をワークの間に行う事で、センターのイメージを考えるきっかけとなり、活発な意見交換となりました。

テーブルワークでの意見は裏面に！

※この事業は、東京制新しい公共支援事業の助成事業です



テーブルワーク1 「子ども未来センターがどんな場所になったらいいか」

- マンガでつながる
 - ・マンガがあるだけじゃなく、マンガで遊べる
 - ・マンガで人がつながる
 - ・マンガを使った活動プログラムがある
 - ・マンガから愛される
 - ・他世代の創造性育成に結びつく場
 - ・匿名でマンガにひたれる場
 - ・マンガだけでなく絵本のある場所
- 多様な世代・団体との交流の場
 - ・世代、職業を超えた仲間が作れる場所
 - ・子どもから大人まで集える場所
 - ・団体間の交流がしやすい場所
 - ・子どもと接することで高齢者が元気に自然とつながりができる
- 市民活動しやすい場所
 - ・活動拠点となる場所
 - ・自由度の高い利用方法
 - ・短い時間も開催している
 - ・これまでの行政系の施設と違う
 - ・市民会館と一体化
 - ・利用者が利用しやすいしくみ、ルール
 - ・活動のアイデアが広がる場
 - ・思いをすぐに行動に移せる場所
 - ・無線LANがある (ゲストにさせない)
 - ・自主的に活動できる (ゲストにさせない)
- スキルアップできる
 - ・アイデア出しから実行まで動ける人を育てる
 - ・子どもから大人までアマチュアリーダー研修
 - ・市民教育ができる場
 - ・1人1人が強運劇に
 - ・市民が活躍できる場
- 独自の魅力がある
 - ・ここに来なければ出会えないような「マンガ」「人」「体験」での出会い
 - ・立川の文化遺産
 - ・ここにしかないマンガコミュニティがある
 - ・立川を舞台、テーマにしたマンガを集める、つくる
- 子どもたちにとって楽しい場所
 - ・子どもたちの笑顔があふれる場
 - ・子どもが主体的に活動できる
 - ・子どもが意見を言える場、とりあがる場、検討する場
 - ・異年齢の子どもが出会える
 - ・子どもが自由に遊べる
 - ・親子でも楽しめる
 - ・ババ、ママの交流会
 - ・孤育で解消できる
 - ・親子で楽しめる場所
 - ・子どもとおとなが一緒に活動
 - ・子どもをお預け親が活動できる
- 魅力的なプログラム
 - ・いつも楽しいことをやっている
 - ・継続的にプログラムがある
 - ・楽しいイベント
 - ・いろいろな団体が常に活動
 - ・企画をどんどんやっている
- 緑、自然を体験できる
 - ・四季を感じさせる草花がある
 - ・親と子どもが自然と問われる
 - ・芝生の上でお昼寝

テーブルワーク2 「子ども未来センターで活動する上で大切にしたい思い」

- 様々な世代が集える場所
 - ・子ども目線、親子目線、地域目線
 - ・多様な世代、職種の人が集まる
 - ・大人も子どもも楽しめる
 - ・来たら楽しめるホッとできる安心
 - ・誰もが「そこにいてもいい」と感じさせること
 - ・安心していける場所
 - ・知らない人と出会い、つながれる
- 子どもが来なくなる
 - ・子どもたちにさせる
 - ・子どもが自主性を大切にできる
 - ・子どもに親同士が干渉しない
 - ・小さな才能を発見する
 - ・地域で子どもを育てる
 - ・他んだ術に相談できる場所
 - ・自分のできることをできる範囲で
 - 選べる、つながりづくり
 - ・各団体に連携できること
 - ・一緒に活動する仲間が集まるプラットフォーム
- 自分たちでつくりあげる
 - ・当事者意識を持つ
 - ・自分たちが楽しんでいる
 - ・みんなが楽しむ場所
 - ・自主的に活動していく
 - ・みんなの空間であることを意識する
 - ・夢を描く
 - ・最低限のルールとマナー
 - ・みんながこのスペースを大事に使う
 - ・気づきがあればできることも増える
 - ・海外からもTACHIKAWA
 - ・自分たちでつくりあげていく
- 思いやり
 - ・人、団体同士の思いやり
 - ・相手の団体を尊重する
 - ・世代、団体間の壁はなくす
 - ・みんなが挨拶しあえる
 - ・気持ちを投影しあえる
 - ・既得権を主張しない
 - ・新しい芽をつかさない
 - 仲間を増やす
 - ・ゲストからキヤストへ
 - ・団体を迎え入れる仲間ができる
 - 楽しんで活動する
 - ・自分を楽しむ
 - ・とにかく楽しむ
 - ・参加者もスタッフも楽しむ
 - ・自分のできることをできる範囲で
- プログラムの魅力
 - ・クリエイティブが大事
 - ・魅力あるプログラムを継続すること
 - ・なんでもありをしない
 - ・メリハリのある企画
 - ・ユニークな視点、アイデアを見せる
 - ・そこに行けば会える人、活動
 - 独自の魅力
 - ・新しい使い方は行きたい場所
 - ・他でやっていないことを行う
 - ・日本の良さを改めて発見できる立川(日本の文化・歴史)
 - ・まんがと市民活動のコラボ
 - ・立川でやる意味がある
 - ・プレナイフ(コンセプト)を持つ
 - 市民のニーズ
 - ・市民の要望に答えられること
 - ・市民活動、市民参加
 - 進化・成長できる
 - ・新しいことにチャレンジする
 - ・新しい価値観が生まれる
 - ・柔軟に変化を楽しむ
 - ・人も場所も変わっていく
 - ・失敗を恐れない
 - 体感
 - ・学びとあそび
 - ・発見がある
 - ・実体験
 - ・本を手で触る
 - ・五感を育てる
 - ・外にでる
 - ・自然とのふれあいがある

＜掲載・発行＞立川市・studio-L



新しい公益基盤整備事業
立川市子ども未来センター
第3回コミュニティプログラムワークショップ

日時 平成 24年 11月 14日 (水)
19:00~21:30
場所 立川市市民会館 5階 第1会議室
参加人数 28名 (19団体)

当日のプログラム

- ▶閉会のあいさつ
- ▶前回のふりかえり
- ▶5つの活動コンセプト
- ▶施設利用の説明
- ▶アイズブレイク「ペーパータワー」
- ▶ワークショップ「子ども未来センターでの具体的な活動プログラムを考えよう」
- ▶各グループの発表
- ▶こけからの飛べ
- ▶閉会

5つの活動コンセプト

前回のふりかえりの後、ワークショップでの意見をもとに立川子ども未来センターで活動していくうえで「5つの活動コンセプト」が発表されました。今後、プログラムを企画、展開していく上での柱となります。

- 1 **多世代が集まる場にしよう**
多世代が楽しめる、楽しく活動しよう
子どもたちも参加できるプログラムを考えよう
- 2 **つながりを大切にしよう**
つながり、協力・連携していこう
お互いの活動を尊重しあおう
- 3 **社会性を意識しよう**
市民のニーズに応えよう
新しい公共サービスを提供しよう
- 4 **楽しんで自主的に活動しよう**
自分たちが何より楽しもう
自分たちでつくりあげていこう
- 5 **魅力的なプログラムをつくらう**
プログラムのクオリティを大切にしよう
センター独自のプログラムを考えよう

施設利用の説明

事務局より、子ども未来センターの具体的な利用についての説明がありました。アンケート等でも質問があった、施設利用団体の登録や、市民活動団体の活動をサポートするコーディネーターについての説明の他、協働事業室（仮）などの設備機能についても詳しく説明されました。

- 協働事業室（仮）付帯設備
- ・メールボックス（年間貸出）
 - ・ロッカー（年間貸出）
 - ・ライブラリー
 - ・パンフレットラック（室外）

アイズブレイク「ペーパータワー」

ワークショップの前に、各テーブル対抗でのアイズブレイクを行いました。今回のゲームは「ペーパータワー」！制限時間内に30枚の紙を使ってできるだけ高いタワーを作ります。作戦会議の時間は7分。その後5分間の間に終了時に一番高いタワーを作ったチームが優勝です。

このゲームの成功のコツは積み上げ方の検討、役割分担、誰が中心となるかなどをメンバー同士でコミュニケーションをとりながら考えていくことです。

今回のゲームでは、3つの班が終了時にタワーを作ることができ、一番高いタワーの2班が優勝しました！テーブルワークでもそれぞれが互いの意見に耳を傾けながら意見を出し合っていました。



テーブルワーク

今回のワークショップのメインは、子ども未来センターでの具体的な活動プログラムを考えるテーブルワークでした。施設の各階の図面が印刷された後紙を用いて、「どんな活動プログラムを」どの場所」で「いつ」「誰を対象に」行うのか、テーブルごとに意見を出し合い、発表しました。付箋のほかにシールを使ったこのワークでは活発な意見交換がされました。テーブルワークでた意見は裏面までとめています。

子ども未来センター各階の機能とスペース

- 1階・子育て機能、芝生広場など
1階には、子育てに関する行政機能や一時預かり室のほかに、エントランス部分の WAITWAI テラス、施設の前に広がる芝生広場などがあります。
- 2階・まんがパーク、共用会議室など
2階は市民活動の拠点となる協働事業室（仮）や共用会議室があります。まんがパーク内には、カフェスペースや展示スペース、階段状のオープンスペースなどが設置される予定です。

地下・ギャラリー、スタジアムなど

地下には、音をだしてもいいスタジアムや、展示スペースとなるギャラリー、工作ができるアトリエなどがあります。

その他

上記の他に、屋上スペースや花壇、市民農園などの空間でも活動ができています。



※この事業は、東京都新しい公共支援事業の助成事業です

「子ども未来センターでの活動プログラムを考えよう！」



1階・芝生エリア

活動の内容

- 飲食
 - ・ 養空料理教室
 - ・ 屋台・夜店
 - ・ エコクッキング
- 上映
 - ・ 映画の野外上映
 - ・ パブリックビューイング
- ピクニック
 - ・ まんがピクニック
 - ・ 地域の方とピクニック
- 市・フリーマーケット
- てづくりフリーマーケット
- 体を動かすプログラム
 - ・ ヨガ・フラ教室

WAIWAI テラス

- 障子園かせ
- 紙芝居
- ものづくり
- 季節のクラフト教室

1階廊下 スペース

- 子育て相談
- 子育て相談
- お話会、わらべうたの会

エリアの特質

不特定多数の人が気軽に参加できるプログラムにしたい。活動の発表の場（多くの人に見てもらう発表など）。時、季節を感じるプログラムをしたい。

2階

まんがパーク

活動の内容

- 交流会
 - ・ 子どもしゃべり場
 - ・ まんがの交換読書会
 - ・ まんがトークバトル
- 展示
 - ・ 多摩のまんが家展
 - ・ ミニコミク
 - ・ まんが大賞
- 情報発信
 - ・ USTスタジオ

会議室

- 上映
 - ・ 映画上映+ワールドカフェ
- 交流会
 - ・ 意見交換ワークショップ
 - ・ 団体交流会
 - ・ 子ども会議
 - ・ 情報発信拠点
 - ・ FMサテライトスタジオ

WAIWAI テック

- 教室
 - ・ 教遊び
 - ・ 羊毛ボールづくり

エリアの特質

まんがを使ったプログラムをしたい。情報発信の拠点となるような場所。つながり、交流を持てるプログラムをしたい。

地下・屋上エリア

スタジオ

活動の内容

- 音楽
 - ・ 赤ちゃん連れコンサート
 - ・ フラ教室
 - ・ 親しい場
 - ・ お昼カフェ
 - ・ 文化に触れる
- 演劇
 - ・ 演劇ワークショップ
 - ・ パフォーマンス

アート

- アート
 - ・ アートイベント
 - ・ アート教室
- 発表
 - ・ 絵巻の壁画描き
 - ・ まんがの描き方講座

ギャラリー

- 展示
 - ・ 写真展
 - ・ 原画展
- 発表
 - ・ 立川のかくれんぼ紹介
 - ・ 立川の発表の場

屋上

- 飲食
 - ・ ピアカフェ
 - ・ 子どもの宴会
- 観測
 - ・ 天体観測
 - ・ 立川の自然環境調査

その他

- 全館を使ったプログラム
 - ・ 全館でワークショップ
 - ・ 文化祭
 - ・ 若者サミット
 - ・ こども村

エリアの特質

アート、音楽などに触れられる場所にした。時間をたくさんとれる活動をしたい。来た人の親しい場となる場所にした。

今後の流れ



今後はオープン後の利用開始に向けて、市民活動団体のみならず、ネットワーキングをしながら、3月のランドオープンに向けて活動プログラムを一緒に検討する会を行っていきたいと考えております。また、参加していただいた市民活動団体のみなさんとの懇話会も検討しています。



〈NPO等の情報収集やネットワーク構築・人材育成による新しい公共基盤整備事業実施における成果〉

①市民活動団体のネットワークの構築

市民活動団体の情報収集では、市民活動支援に関わる各関係機関のデータを参考に、立川市やその周辺で魅力的な活動をしている団体を抽出することができた。立川市は活発に活動する市民活動団体が数多くあり、また、数十年にわたり活動を継続している団体もあれば、まだ設立後1年未満の団体も存在する。これら新旧の団体をリスト化することは、今後、各団体が市内の様々な場で連携した取組みを進めていくための大きな材料となる。

ヒアリングでは、現在の活動における特長や悩み、今後の活動に対するニーズを把握することができた。多くの団体が共通して感じている悩みやニーズも多く、それらの悩みを解決し、ニーズを担保するための可能性として、「新しい活動の舞台」(公共空間)が求められていることも確認することができた。また、市民活動団体同士「横のつながりが少ない」という意見を求められているにも関わらず、そのきっかけを見つけられずにいることがわかり、以後のワークショップやマッチングに対するニーズを認識することができた。さらに、各団体の特長を聞くことで、団体間の今後の連携の可能性についても検討することができた。

ワークショップでは、これらの点をふまえ、各回で参加者が多くの他の参加者と意見交換できるようなプログラムを設定した。新しい公共空間を活動の舞台として考える今回のワークショップでは、団体同士が互いの活動についての理解を深めることでネットワークづくりのきっかけとなった。各団体個別のプログラム展開の可能性だけでなく、異なる団体同士が連携して展開する発展的なプログラムの可能性も数多く見えてきた。

②新たな公共の担い手の発掘、人材の育成

団体をリスト化することにより、今後、新たな公共の担い手となる団体・人材を発掘する事ができた。また、ワークショップでは、団体同士がそれぞれの特長や悩みを理解することで、協働・連携の可能性を検討できる人材の育成も行うことができた。市民活動団体同士の連携やネットワークの構築は、立川市における新しい公共の担い手発掘のモデルとして、今後活用することができると考えられる。公共空間での市民活動団体の活動展開とともに、運営にも市民活動団体に関わる流れが見えたことは本事業における大きな成果である。

〈NPO等の情報収集やネットワーク構築・人材育成による新しい公共基盤整備事業実施における今後の課題〉

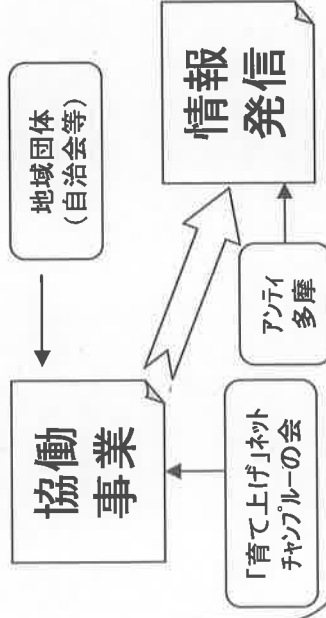
- ① 継続的なネットワークの構築
本事業では市民活動団体同士のネットワークとともに、新しい公共空間の運営面とのつながりも構築することができた。今後はこのネットワークを活かし、具体的な活動を開始するとともに、継続的なつながりをつくっていくことが重要となる。ワークショップでは新しい公共空間を舞台とした具体的な活動プログラムのアイデアまで検討された。今後、子ども未来センターをはじめとした、市内各地域の公共施設での展開が期待され、継続的な意見交換を設定していく必要がある。また、公共空間でのプログラム展開とともに、子ども未来センターの運営や維持管理面への参画についても、その可能性を検討していく必要がある。
- ② 更なる市民活動団体の発掘
最終的にワークショップに参加した市民活動団体は21団体であった。市内にまだ多くの魅力的な市民活動団体が存在すると考えられる。今回のヒアリング調査やワークショップに参加できなかった団体も含め、更なる市民活動団体の発掘が必要となる。今回ネットワークを構築した団体から、新たな団体の情報の発掘も可能と考えられる。

5. 事業実施上の課題(全体)

- 今回の取り組みは、NPO等のネットワーク化に向けた取り組みであったが、会議体のメンバーや事業への参加者が、ネットワーク化の必要性を理解してもらったことが難しかった。
- 地域に協働事業を説明をするにあたっては、NPO等のネットワーク化に向けた取り組みという目的から説明しても、地域は今すぐ必要な取り組みを求めており、理解を得られるまで時間を要した。
- 地域団体との調整には、非常に時間がかかった。自治会等の地域団体は、組織として協議体の形式であるため、会長だけへの説明では調整ができない。この特性を理解した上で、時間をかけた説明が必要であった。
- 約1年半という期間では、自発的な機運を盛り上げるには短かった。しかしながら、今後の事業展開につなげるという視点でモデル事業を進めてきた。
- 人材育成という点についても、育成するとしても事業期間が短く、モデル事業の中で完全に育成することができたとは言えないが、育成に向けた種まきをすることはできた。
- 事業の周知としては、市のホームページや自治会の回覧を活用したが、一方通行ではない、周知方法を取り入れた方がよかった。例えば、自治会や各種団体のイベントでの周知活動を行う等の工夫が必要だった。

6. モデルとして他のNPO・行政等に紹介する仕組み

○地域課題解決に向けたNPO等の協働事業を通じた新しい公共の仕組みの検証事業

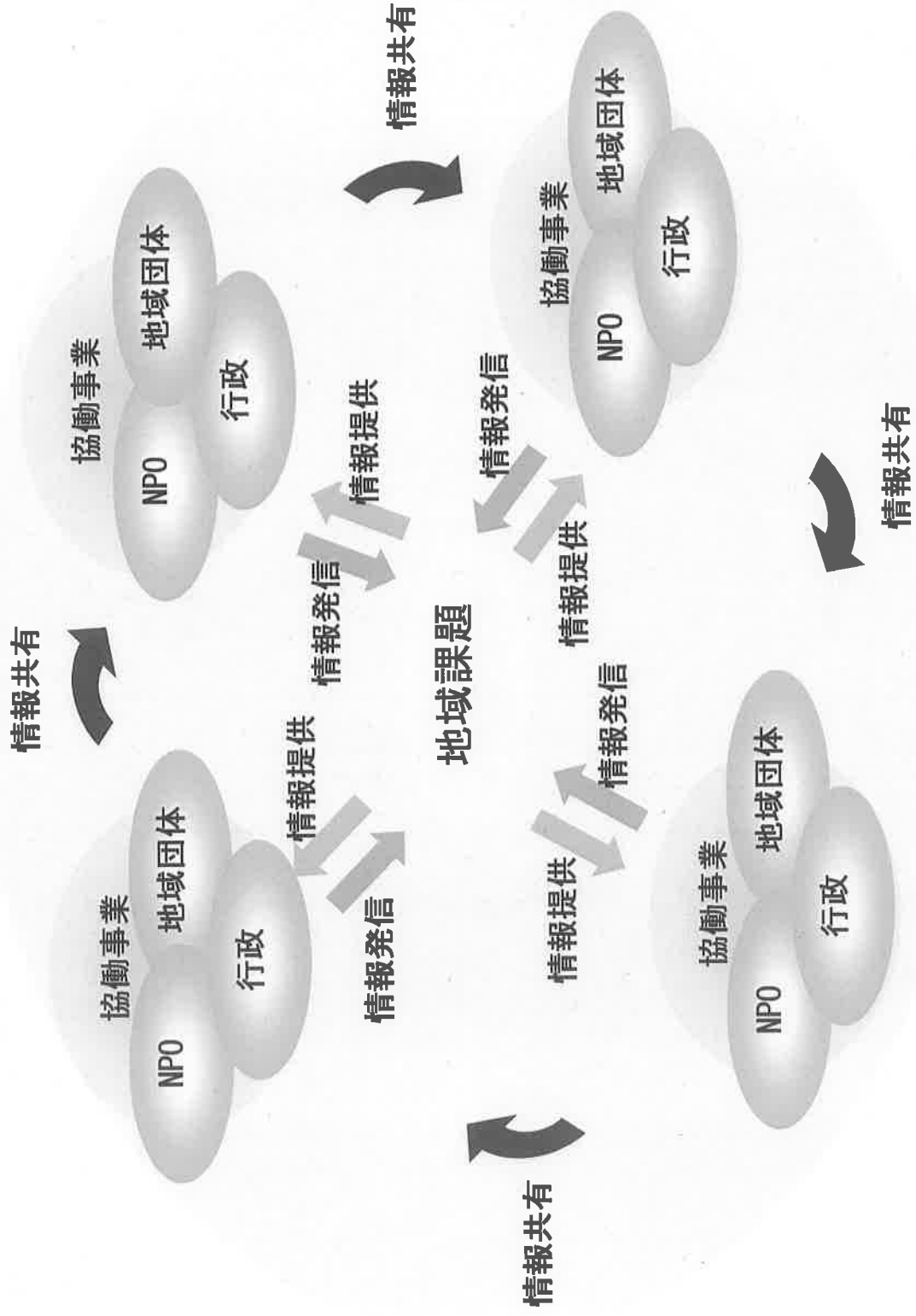


○NPO等の情報収集やネットワーク構築・人材育成による新しい公共基盤整備事業

- NPO等の情報収集、分析
- NPO等へのヒアリング
- ワークショップによる課題抽出
- ネットワークの構築
- コーディネーター型の人材育成

NPO等が多様な地域の団体と行う協働事業の積み重ねと、その協働事業の情報発信を行うしくみとともに、NPO等のネットワーク構築に向けた情報収集や人材育成事業を並行して実施することで、地域課題の解決に向けて、NPO等が地域の信頼を得られるモデルとなる。

NPOと地域をつなぐしくみのイメージ図



〈成果目標に係る達成状況〉

【目標数値】

- NPO等のネットワーク構築 参加率50%、
- コーディネート型の地域人材の育成 1期生30人、
- NPO等と地域の団体をつなぐ情報誌の発行 3回、発行部数 900部(300部×3回)
- NPO等の団体間の交流、マッチング会の実施 2回

【達成状況】

- NPO等のネットワーク構築 参加率8.9%(19団体/213団体)
- コーディネート型の地域人材の育成 1期生28人(コミュニティプログラム参加人数)
- NPO等と地域の団体をつなぐ情報誌の発行 3回、発行部数 900部(300部×3回)、ONPO等の団体間の交流、マッチング会の実施 2回

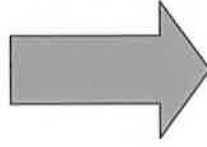
当初は、ネットワーク構築のために、広く参加を募ることを考えていたが、事業実施の中で、協働事業の積み重ねからネットワークを広げていくことが有効であることが実証された。

7. 平成25年度以降の予定

地域自治のしくみづくり

立川市第3次長期総合計画第3次基本計画の中で位置づけられた取り組み。
(計画期間 平成22年度～平成26年度)

(展開のポイント)
地域住民や地域を構成する組織・団体が、地域の課題を共有し、自主的に解決に取り組む地域自治のしくみづくりを進める。



平成25年2月にオープンした子ども未来センター協働スペースを拠点として、NPO等が多様な地域の団体と行う協働事業の積み重ねと、その協働事業の情報発信を行うしくみとともに、NPO等のネットワーク構築に向けた情報収集や人材育成事業を並行して実施していく。